

座光寺石川除

村を守る川除

天竜川を挟んで対岸にある伴野堤防により跳ね返された激流は、座光寺村めがけて直進していき、座光寺石川除を造る契機となった。

伴野堤防完成より22年後の1831(天保2)年に完成した。

1961(昭和36)年に発生した三六災害によって、惣兵衛堤防と伴野堤防は多くが失われたが、座光寺石川除の保存状態は極めて良い。



現在も残る石川除



市道の端に位置している石川除



惣兵衛堤防・伴野堤防・座光寺石川除の位置関係

(国土地理院の数値地図50000(地図画像)を使用)



石川除の北の辻にある「壘田碑」(建設:明治44年3月)

「金原明善」:天竜川全体を見通して各種の工事を行った最初の人物。その金原が碑上部の文字を書いている

information

□ アクセス

松川ICから15km

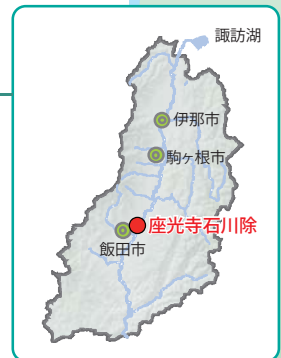
車→30分

元善光寺駅から1km

徒歩→13分

□ 所在地

飯田市座光寺



現存する
堤防

現在は市道の道路端、耕地の真ん中に位置している。1831(天保2)年、村で建設資金を集めて完成させた堤防は、1835(天保6)年に約76mに渡り崩れ、現在残っているのは1868(明治元)年のもの。

新田開発

石川除の完成以来、河原新田が急速に開発された。用水は市田村より引水され、この石川除付近より分水されたのち、新田を潤した。



(国土地理院の数値地図25000(地図画像)を使用)